

仮設きずな新聞



第89号

本紙は、ピースボート災害ボランティアセンターが、石巻市内の仮設住宅に向けて発行・配布する無料情報紙です。毎月10日、25日発行。

特集 地域の絆を結ぶ新聞

震災後、まちの状況が大きく変化する中で生まれた、手作りの新聞たち。単に情報を伝えるだけでなく、地域の絆をも結んできた新聞をご紹介します。

大きな被災を受けたふるさと牡鹿のために「この想いから、牡鹿地区出身の有志3人が発行を始めたのが、鹿ふるさと通信」(月1回約2千部発行)だ。発行当初は、編集を担う鈴木ひろみさん宅で試行錯誤しながら新聞作りをしていたが、牡鹿地区復興応援隊の目に止まり、助成事業として継続可能となった。なかなか入ってこない牡鹿地区の話題を、お年寄りでも分かりやすいように伝えた「い」と鈴木さん。 狸鹿

ふるさと通信』は、地域の住民が笑顔を共有するための大切な手段となっている。

地域に暮らし続けている人にももちろん、震災を機に地域を離れた人にもふるさと通信の報を伝えたいと始まったのが「月刊おがっ」(月1回1千7百部発行)。発行部数の実には4割が雄勝地区外への郵送だ。同紙発行に関わっている雄勝地区復興応援隊の四倉由公彦さんによると、雄勝地区外に転居した住民の方々から「雄勝に帰りたい」という声も聞かれました。丁寧な取材のもと作られている「月刊おがっ」は、住む場所が変わっても雄勝を想い続ける人々に愛されている新聞だ。

被災の度合いや支援の大小に関わらず、公平に情報が届けられるように」との思いで発行されている「罪上かわらばん」(月1回1千部発行)。取材、記事の執筆からレイアウトまでを担当する、北上地区復興応援隊の日方里砂さんは「震災後に北上に移住した私にとって、北上は本当に素晴らしい地域。それを住民さんにも再認識してもらいたい」と話す。今後、復興が進む中で、「罪上かわらばん」は、観光情報や北上の素晴らしさをも伝える新聞を目指していく。

釜・大街道地区を拠点に活動する5つの支援団体が協働して発行しているのが、「ゆく輪」(月1回3千部発行)だ。石巻地域づくりコーディネー

ト事業」の一環として発行されている同紙は、地域のイベント情報や復興計画を発信することで、地域の活性化を目指す。地区を離れてしまった人たちがいつでも戻って来られる「心の拠り所」のような地域を作りたい」と話すのは、中心メンバーの西村真由美さん。たとえ地区を離れても、気持ち繋がっていることに意味があると考え、釜・大街道地区の住民に寄り添っている。

石巻から神戸へ祈りの灯

黙とうを捧げました。

阪神・淡路大震災から20年、震災の犠牲者を追悼する「17阪神・淡路を忘れない」感謝と追悼の集い」が開かれました。冷たい小雨がぱらつく中にも関わらず、会場の中瀬公園には早朝から約1000人の市民が集まり、まだ真っ暗な中キヤンドルを灯して、地震発生時刻の午前5時46分に

主催したのは、仮設住宅のコミュニティ支援などを行うNPO法人石巻スポーツ振興サポートセンター。神戸の団体から支援物資としてもらったというジャンパーを着た理事長の松村善行さんは、おにも大災害を経験した神戸のことを忘れず、感謝の気持ちを持って、前へ進んでいきたい」と語っていました。

昨年、神戸を訪問し、震災の爪痕もない街並みを目にして、神戸は復興したんだなあ」と感じました。しかし、お話しを伺った神戸の方々は、口を揃えて「だ復興してないんです。課題が山積みなんです」とおっしゃっていました。東日本大震災からもうすぐ4年。これからは、目には見えない復興も視野に入れて、前進していかなくてはなりませんね。ピースボート あき

■郵送による購読受付、バックナンバー等

◎牡鹿ふるさと通信
tel: 0225-45-3238
mail: s-hiromi@mx51.et.tiki.ne.jp
URL: http://s-hiromi.sakura.ne.jp

◎月刊おがっ
tel: 080-1846-2501
mail: ogatsu.fukkou@gmail.com
URL: http://ogatsu-fukkou.blogspot.jp

◎北上かわらばん
tel: 090-6639-5153
mail: nikkori3@parcic.org

◎ゆくゆく輪(釜・大街道地区)
tel: 0225-25-5585
mail: yukuyukuwa@gmail.com
URL: http://www.big-up-ishinomaki.jp

各紙は基本的に市報と共に地区内で全戸配布されていますが、要望に応じて地区外への郵送も行っています

(無料)。興味のある方は、ぜひ左記連絡先まで。ピースボート さっちゃん

一人ひとりが活かされる地域に

〈阪神 淡路から20年〉過去から学び、未来をつくる⑩

4日間の視察研修の中で私にとって最も印象的だったのは、HAT協の浜地区民生児童委員協議会会長で県営住宅連合自治会長の松永明さんのお話です。会社員を経て、母親の介護のために県営住宅に暮らすようになり、そこで民生委員や自治会長を長年担ってきたという松永さんに、地域で生きるすべの人の人にとって大切にすべきこと」を教えてくださいました。

地域で生きる私達は、誰しもが自分の存在を認められたい」という思いがあります。この欲求は、マズローの欲求5段階説、生理的欲求、安全欲求、社会的欲求、尊厳欲求、自己実現欲求)の尊厳欲求にあたります。誰もが持ち合わせているこの尊厳欲求に、松永さんは注目しました。松永さんの地域で、元職人で、お酒と煙草

ようにしました。すると、徐々に地域にも受け入れられ、打ち解けていきました。

このエピソードには、異質なものを排除する、その存在を認めるか」という分かれ道があり、自分自身を他者に認めてもらいたく、そして自分でも認めたいものです。しかし、地域にはどうして「排除されがちな方」が存在することも事実です。

住民の才能が地域に還元出来ないのはもったいない」と松永さんはおっしゃっていました。日本全国の地域で住民一人ひとりの才能が再度開花出来るようになったら、とても素敵だと思えました。石巻という地域が排除ではなく、尊厳を大切にしたい地域の心を見つめ、神戸で発見する事が出来ました。

文章講座 受講者募集

料理に「レシピ」があるように、文章にも必ず上手くなる「コツ」があります。例えば、文章はガラリと変わります。初めての人も大歓迎!

【日時】2月3日の曜日(2月10日、17日、24日、3月10日、24日)全5回
【時間】18時30分〜20時00分
【場所】ピースポルトセンターいしのまき(立町1-5-21)
【費用】500円
【講師】中原一歩氏(ノンフィクションライター)
(締切)1月31日(土)
(申込み・問合せ)0225-102515
5602(10:18時)金曜・祝日定休
/kazetsuk
▼kazetsuk
izunajp
or.jp
※本講座は石巻市「地域づくりコーディネーター事業」の補助金により開催されます。

2月のイベント情報

■在宅医療に関する普及啓発講演会

福祉ジャーナリストで元NHKアナウンサー町永俊雄氏による講演会。テーマは「自分らしく安心して暮らすために〜地域を創る医療と福祉〜」です。医療や介護に携わっている方はもちろん、広く一般の方にも聞いていただきたい内容です。

日時：2月12日(木)14時開演
場所：石巻専修大5号館 5301教室
参加費：無料
申込み締切：2月6日(金)
申込み・問合せ：市立病院開成仮診療所 (080-2847-3533)

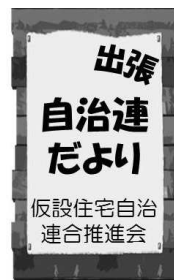
■攻殻機動隊原画展 in 石ノ森萬画館

発表から25年が経った今もなお波及し続けている「攻殻機動隊」シリーズの世界観を踏襲した原画展を東北で初めて石ノ森萬画館で開催!! オリジナルグッズの販売も!

日時：4月19日(日)まで
場所：石ノ森萬画館2F企画展示室
観覧料：大人800円
中高生500円
小学生200円

問合せ：石ノ森萬画館 (0225-96-5055)





突然のご報告となりました。1月末を以て、現在の所属であるみらいサポート石巻を退職することになりました。

ですが、石巻を離れるわけではありませぬ！ 2月からも基本的な姿勢は変わらず、仮設住宅 復興住宅 地域の皆さんのお手伝いに携わっていきたくと考えています。これまで、あまり外に出る時間が取れずにご無沙汰してしまっている方が多く、訪ねたい方がたくさんいますので、今後は足を運ぶ機会を増やしていきたいです。

た。今後は、各戸配布ではありませんが、これまでにも行ってきた「自治連だより」の掲示板貼り出しを継続し、情報をお届けしていく予定です。ぜひご覧になってください。

皆さんお一人お一人に届くこの新聞には、単に情報だけではなく、編集部のみんなや配布を手伝ってくださる方々、さらにそれを応援してくださる方々と、本当にたくさんの方々の思いが詰まっています。ピースポートさん数名でなんとか継続されている状況ですが、この取り組みが長く続いていくためには、住民の皆さんの応援と協力が欠かせません。配布のお手伝い等に関わってくださる方が増え、みんなで作りに上げるような、より良い新聞になっていくことを願っています。

引越しお役立ち情報

石巻では今年度中に約1300戸の復興住宅が完成の見込みというところで、そろそろ引越しの準備を始められる方も多いのでは無いでしょうか。

仮設住宅はいっつかは退去するもの。今回は引越し時のお役立ち情報をお届けします。

仮設住宅の退去が決まったら

仮設住宅コールセンター 牡鹿、雄勝、北上は各総合支所に電話をし、立会いの予約をしましょう。立会いの際に、仮設住宅返還届への署名捺印とカギの返却をします。

- ◎仮設住宅コールセンター 0225-925901 ※8時30分〜20時
- ◎土日・祝日も対応
- ◎牡鹿総合支所 0225-452111
- ◎雄勝総合支所 0225-572111
- ◎北上総合支所 0225-672111
- ※各支所は平日のみ

粗大ごみの出し方

自転車、家具、ストーブ、ふとんなどは粗大ごみになります。粗大ごみは申込みをしないと収集されませんので、計画的に適切に処理しましょう。

◎収集の手順
1) 収集日の1週間前までに、粗大ごみ受付センターに電話で申し込む。収集日はごみカレンダー参照。

2) 粗大ごみ処理券をコンビニエンスストアなどから購入する。

3) 粗大ごみ処理券を貼って、指定された収集日に自宅前または団地の出入り口付近に収集車が入れる場所に出す。

◎代金の目安
500〜2000円

◎粗大ごみ受付センター
0225-233828

引越し補助金

仮設住宅 みなし仮設住宅を含むから市内の復興公営住宅その他の公営住宅、市内の民間賃貸住宅等へ移転し、仮設住宅等の退去の手續きが完了した場合に補助金 定額10万円が交付されます。

◎手続き方法：引越し、および住民票の移動が完了した段階で、生活再建支援課または

各総合支所保健福祉課に連絡し、申請日の予約を取ります。

◎必要書類：り災証明書、住民票、移転先の入居に関する契約書、振込口座の預金通帳、印鑑、本人確認書類など。補助金交付申請書、移転完了報告書、補助金請求書は申請時に窓口で記入します。

※注意事項：市外に移転される方、仮設住宅から持ち家や防災集団移転団地に移転される方、生活保護を受給されている方などは対象になりません。詳しくは生活再建支援課まで。

◎生活再建支援課
0225-951111
内線4761〜4768

立つ鳥跡を濁さず」と言いますが、マナーを守って気持ち良く転居したいですね。お隣さんはもちろん、自治会長さんや世話人さんへの報告&ご挨拶も忘れずに。
ピースポート あきこ



こんにちは、新しい年となりました。今年がみなさんにとってより良い年となりますように。北上町から日方をお届けします。皆さん、年越しはどんな風に過ごしましたか？

北上町の年越しの様子

北上で年越しの気配がしてくるのは、釣石神社の注連縄が取り替えられ、北上川河口でとれたヨシで作られた茅の輪や門松が飾られる12月中旬でしょうか。元朝参りに訪れる参拝者が気持ちよく詣でられるよう、地域の方々の手によって、年末のうちに新たな装いになります。

28日は、歳の市である「まゐりかみ復興市」が開かれ、北上町内の美味いものがお得に購入できます。ここで正月の訪問先への贈り物や年越しの準備をする方々も多いでしょう。

クリスマス



▲ 毎年設置されているヨシのジャンボ門松

には、にっこりサンパーク入口近くに、ヨシで作ったジャンボ門松が設置されます。北上町はこうして少しずつ年越しの雰囲気になっていきます。

正月膳の背景にある北上の豊かさ

十三浜では大みそかになると、船に大漁旗を立てて松を飾り、ご馳走を盛ったお膳を供え、安全と大漁を祈願する姿が見られます。このお膳は正月膳／お節料理で、お正月に火を使う煮炊きを控えられるよう、日持ちするご馳走料理が並びます。

このご馳走を体験できるイベントが「北上伝統の正月膳を楽しむ会」として11月末に開催され、石巻や仙台から多くの方が参加し、北上の豊かな正月膳を楽しまれました。この企画は、合併前の北上町の時代に行われた

【食育の里づくり】がもとになっていきます。「嫁にきた時、ここは銭がなくても暮らしていけるところだと思った」。そういわれるように、「食育の里づくり」で当時分かっただけでも三百種類以上の食材がとれる地域であることが判明（地域の方々にヒアリングし食材がリスト化された）、当時この取り組みがテレビで特集されたほどでした。

北上でとれる美味しいもの・ご馳走の背景には、雄大な北上山地と北上川、太平洋に囲まれ、多くの沢、沼、野があり、田や畑など、北上ならではの自然環境があります。この資源を生かして、いかに北上の人々は暮らしていたのか。その営みの中に、これからの時代、私たちが学ぶところは大きいにあるように思います。

(バルシック ひかた)



▲ 親子三代で船に松とご馳走をお供え

編集後記

仮設住宅自治連合推進会の西本健太郎くんへ

編集部を一新してから早くも1年半。原稿の締め切りを一度も破ることなく、いつも温かい、そして役立つ記事を書いてくれていた健ちゃんは、本当に頼りになる存在でした。神戸視察のときも、その細かな気遣いで私たちや自治会長さん達をサポートしてくれて、本当に助かりました。健ちゃんが仮設きずな新聞を卒業するのは寂しいけれど、引き続き石巻のために頑張ってくれるということなので、これからもお互い協力しながら進んでいきましょう。

一号でも長くこの新聞が続けられるように、私もがんばるね。これまで本当に、ありがとう。

(ピースポート あき)

■仮設きずな新聞とは… ピースポート災害ボランティアセンター（PBV）が2011年10月より、石巻市内の仮設住宅に向けて発行・配布する無料情報紙。コンセプトは「仮設住宅での暮らしに役立つ情報を届ける新聞」「ココロが元気になる新聞」。毎月10日、25日発行。毎号約7,000部発行。

■仮設きずな新聞は以下の場所でも手に入ります。
あがらいん、いしのみ☆キッチン、石巻市社会福祉協議会（各支所）、石巻フューチャーセンターこはく、IRORI石巻、おがつ店こ屋街、おしかのれん街、上釜会館、かめ七呉服店、からころステーション、道の駅「上品の郷」、宮城クリニック、復興ステーションBAPPA、浜友、HANA荘、復興大学、ヤフー石巻復興ベース、ピースポートセンターいしのみまき

■「仮設きずな新聞」編集部 所在地

ピースポートセンターいしのみまき（10:00-18:00/金曜日・祝日定休）
〒986-0824 石巻市立町1丁目5-21（ことぶき町通り商店街内）
TEL:0225-25-5602 FAX:0225-25-5603 Email:kasetsukizuna@pbv.or.jp

- 発行元 ピースポート災害ボランティアセンター（PBV）
- 協力 石巻仮設住宅自治連合推進会/石巻専修大学 復興共創研究センター/キャンパス東北/震災こころのケア・ネットワークみやぎ/街づくりまんぼう/復興大学
- 編集長 岩元 暁子
- 編集委員 伊東 孝浩/苅谷 智大
- 配布統括 田上 琢磨 高柳 伸康/西村真由美
- デザイン 矢野 瑛子/妙本 咲季 西本健太郎/野津裕二郎